

第 1 回調査検討委員会での意見と対応

日時：平成 21 年 8 月 3 日（月）15：30～17：30

場所：八仙閣 2階

1. 対象集落選定の考え方について

No.	意 見	対 応
1	<ul style="list-style-type: none"> ワークショップ開催の視点では、外部支援のないまま残っている所が3世帯というのは厳しいものになると思われる。（小川委員長） 離島側である程度密集した集落を選定するならば、中山間地側はある程度分散した集落を対象とした方が、今後の分析の幅、知見が広がるのではないかと。（山田委員） 	<ul style="list-style-type: none"> 対象集落として椎葉村の瀧春山集落（散居型）、瀬戸内町（加計呂麻島）の知之浦集落（密集型）、阿多地集落（密集型）を選定した。
2	<ul style="list-style-type: none"> 瀬戸内町のD（知之浦）、L（阿多地）集落を併せての調査が適切ではないだろうか。L（阿多地）集落のIターン者受け入れの取り組みは、より調査目的を考慮した場合には対象に合致。（小川委員長） 	
3	<ul style="list-style-type: none"> 中山間の議論では述べなかったが、委員会としては他出者に注目。他出者が集落に関係しているのか、個人を対象にしているかの違いがある。（山田委員） 	<ul style="list-style-type: none"> 対象集落の他出者の動向を把握するためのアンケートを実施する。

2. 集落元気づくりによる自立的な集落元気づくりの取組検討、集落アンケート調査の内容について

No.	意見	対応
4	<ul style="list-style-type: none"> 他出者の直接の関心は集落よりも家族にあると考える。お互いの往復の頻度、時間、費用が客観的な集落の維持に大きく関係。帰省の理由には、集落の行事や親の高齢化等があるが、行事に対する帰省はかなり減少しているのではないか。(山田委員) 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査項目に他出者の帰省頻度、時間、費用を問う設問を追加
5	<ul style="list-style-type: none"> アンケートでは他出者のみでなく集落の人に対しても、不安の要因を解き明かすといった観点が必要。(小川委員長) 	<ul style="list-style-type: none"> 集落住民アンケートは世帯主だけでなく、全住民を対象として実施
6	<ul style="list-style-type: none"> 今回の調査では第一段階で集落に残っている方々を調査し、次いで関係者である他出者を含めた協力者へ対象を広げ、郵送により回答を得る新たな調査手法で進める。(小川委員長) 	<ul style="list-style-type: none"> 住民アンケートにおいて、他出者の住所を把握。また、他出団体の有無を確認し、存在する場合はその活動概要についても調査
7	<ul style="list-style-type: none"> 他出地を明確にするアンケートの質問が必要である。(吉武委員) 	<ul style="list-style-type: none"> 他出者の他出地を明確にする設問を追加

3. 先行事例調査について

No.	意 見	対応
8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集落との連携や地域貢献を行っている全大学対象アンケートの実施が望ましい。(小川委員長) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学、研究機関を対象としたアンケート調査を準備
9	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集落維持が困難になっている状況の捉え方や事例を市町村や県レベルに留めず、九州圏域で捉えることは非常に良い。各県にある山間地や離島の情報を一つに蓄積し、必要な所へ提供出来るものを考えるのは非常に有効なのではないかとの意見に対して、まず組織が先に立つ形式は難しいとの意見があった。(山田委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学、研究機関に対するアンケート調査や集落の実態把握を通じて、中間組織のあり方についての方向性を定める
10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 九州での集落支援への体制づくりの問題は政策提言も含めて、まとめの段階の宿題。先行事例は集落での元気づくりの次段階への手がかりとして使いたい。(小川委員長) 	
11	<ul style="list-style-type: none"> ・ 離島において、他出者の協力により取り組めるといった先行事例がみえると良いのではないか。自分達の集落では力が足りないが、近辺の集落と協働することによってプログラムを開発していくといった形であれば、集落連携による先行事例の課題もみえてくる。残っている人や親族縁者では難しい場合に、外側からNPOや大学の力により取り組めるといった先行事例を提示出来れば、それも支援の一つになると考えられる。(小川委員長) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集落元気づくりワークショップにおいて他出者やその他支援者の参加を検討し、その役割のあり方について考える